

校内研修計画

(1) 研究主題

主体的に学び、考えることを楽しむ児童の育成

～ 一人一人の資質・能力を高める学習指導の工夫 ～

(2) 研究主題設定の理由

本校は、児童数 60 名で小規模校である。子どもたちは明るく素直で、やさしく他を思いやる気持ちが強く、異学年でのたてわり活動では上級生が下級生を進んで世話したりリーダーシップを発揮したりする様子が見られる。

昨年度、朝のチャレンジタイムで算数科に特化した基礎学力の向上を図ったところ、学習状況調査等の結果から、算数の知識・技能においては、どの学年も伸びが見られた。しかし、説明など記述や思考を要する問題や、国語科における主語、述語、修飾語等の知識・技能においては、県の結果と同様の課題が見られた。本校は児童数が少ないため、学習状況調査等で表される数値の増減が激しくなる傾向があるが、逆に、伸びしろがあると捉えることもできる。

そこで、今年度も朝のチャレンジタイムで算数科を中心に問題に取り組んだり、タブレット端末を効果的に活用（ドリルパークやオクリンク等）したりすることで、自ら課題に取り組む意欲がさらに芽生え、本校児童の学力定着につながっていくと考えられる。

本校の今年度の学校教育目標は、「「納所がすき！」「学校がすき！」と言える子どもの育成」であり目指す子どもの姿は、「主体的に学習活動を行い、確かな学力を身に付けた児童」、「友達を大切にし、支え合って生活する児童」、「心身の健康に向き合い、自分の体力に応じて体を動かそうとする児童」である。そこで、三つの姿のそれぞれに対応した「かぜっこパワー」を設定し、それが本校の子どもたちに八つの身に付けさせたい資質・能力とした。

子どもたちが個別最適な学びや協働を通じた学び合いの中から、学びの充実や資質・能力の伸びを実感し、心豊かに自ら学ぶ教室となることや、その充実した活動が子どもたちの生き生きとした姿へとつながっていくことを目指して研究を進めていきたい。

そこで、副主題は「一人一人の資質・能力を高める学習指導の工夫」とし、昨年度に続き研究を深めることとした。

子どもたちに、自ら課題に取り組む意欲・自己決定力・判断力を身に付けさせるために、唐津の学びスタイルを共通実践しながら、タブレット端末の効果的な活用を行ったり、朝の時間（チャレンジタイム）で基礎学力定着を図ったりすることで、「かぜっこパワー」に示された八つの資質・能力の伸びを実感する姿を通して、学校教育目標の具現化に迫っていきたい。

(3) 目指す子どもの姿

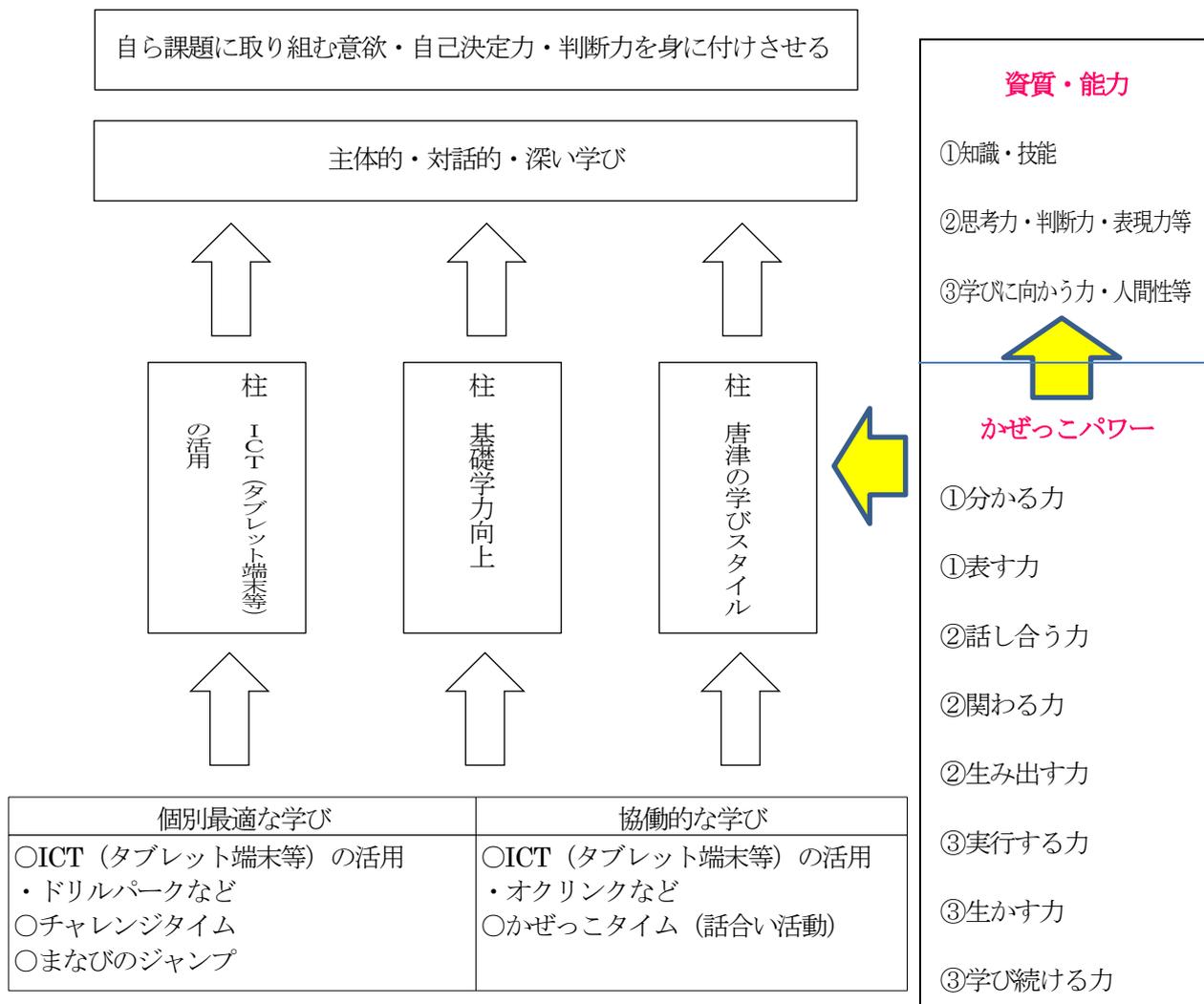
- 自ら課題に取り組む意欲をもち、自己決定力や判断力を身に付けようとする子ども
- 互いのよさを認め合い、共に学び合う子ども
- 自分の学びを実感し、新たな学びにつなげようとする子ども

(4) 研究の仮説

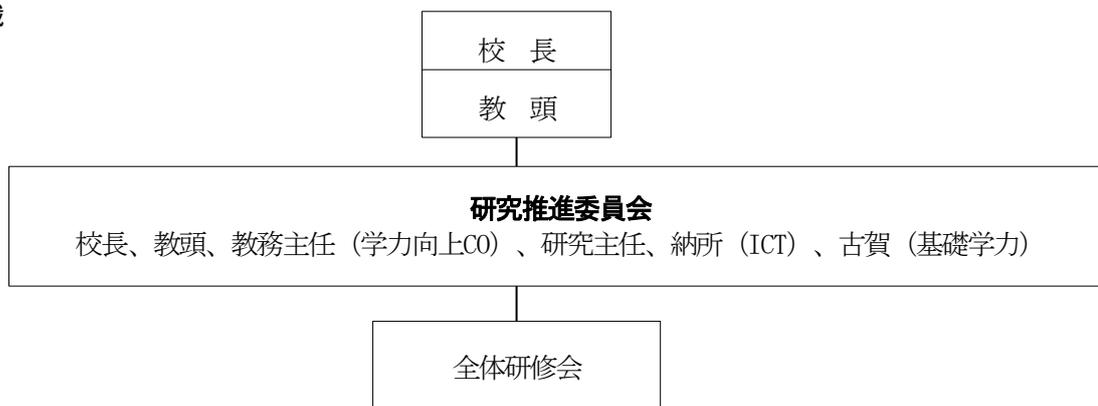
学習規律と共に、唐津の学びスタイルを共通実践していくことでまなびの基盤づくりを行い、その上で、教科等の特質に応じて「かぜっこパワー」を位置付けた授業づくりを推進していくことで、自分の資質・能力の伸びを実感する児童の姿が見られるであろう。さらに、個別最適な学びとして、チャレンジ

タイムで継続的に算数を中心とした問題に取り組ませたり、タブレット端末でのドリルパーク等の効果的な活用法を共有したりすることで、児童の基礎学力の向上が図られるであろう。また、タブレット端末でのオクリンク等を活用したり、かぜっこタイム（話し合い活動）を取り入れたりといった、子どもたちの主体的な取組を生かした授業づくりを推進することで、協働的な学びとなり、新たな学びに向かおうとする子どもの姿が見られるであろうと考える。

(5) 研究の方針



(6) 組織



※ 学習に関する校内掲示作成などは、全職員で行う。

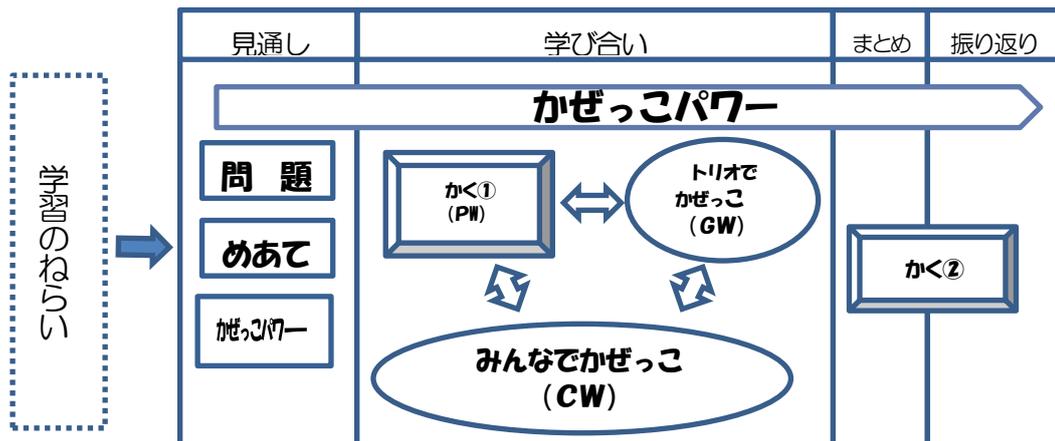
【唐津の学びスタイル：納所小スタンダード】

	単元の課題や本時のめあての質を高める
a	【かぜっこパワー】 その授業で一番身に付けた資質・能力（かぜっこパワー）を示すことで、「何が身に付いたか」など学習の振り返りにつながるように、授業のねらい（目的）を児童にも理解させる。 【めあて】 発達段階に応じて、担任が提示したり、できるだけ具体的な言葉を使って児童に考えさせたりしてめあてを設定する。
	単元計画、単元デザインをしっかりと立てる
b	1時目に単元のめあてと単元計画を立てる。本時の活動がどの段階であるかを確認する。必要に応じて学習したポイントを掲示する。
	課題解決の過程におけるステップの明確化や細分化を工夫する
c	PW、GW、CW を必要に応じて組み合わせて、授業の各段階で行う。見通しをクラス全員で確かめて、全員が課題解決に臨めるようにする。授業の初めには、必ず前時までの既習事項の復習をする。
	個々の特性や進度に応じた学習材の提供や学習活動を工夫する
d	タブレット端末と電子黒板を活用して、児童の考えを学級全体で共有する。
	遅れがちな児童生徒に対する個別最適化の取組
e	チャレンジタイムを全校で設定し、国語科や算数科を中心とした基礎基本の定着を図る。課題が見られる児童には、朝や昼休みなどの時間を使って、個別指導をする。
	各教科等における質の高い話し合いの実現に向けた取組
f	自分の考えを広げる対話活動になるような工夫（話型・話し合いの観点・ホワイトボード・他者の考えを付け加える等）に取り組む。
	リフレクションを充実させメタ認知を高める取組
g	振り返りのポイントを示したり、他の児童の振り返りを紹介したりすることで、振り返りの質を高める。

(7) 重点実践事項

- ① 確かな学力を支える学びの基盤づくり
 - 「まなびのホップ・ステップ・ジャンプ」を活用しての学習規律の確立
 - 朝のチャレンジタイム（火・木）での基礎学力向上
 - ICT（タブレット端末等）の効果的活用【ドリルパーク、オクリンクなど】
- ② 「唐津の学びスタイル」の実践
 - 「身に付けさせたい資質・能力（かぜっこパワー）系統表」の活用
 - 「ねらい」と整合性のあるめあてや学習活動に生きる「かぜっこパワー」、ゴールの設定等、学習の見通しをもたせる工夫
 - 授業研究会による交流

【授業スタイル：納所小スタンダード】



(8) 研究成果の検証

○唐津の学びスタイルの検証

- ・7月、10月、1月に各学年での実践状況を振り返り、課題点を明確にして改善していく。

○チャレンジタイム、タブレット端末活用の確認

- ・校内研修時に、各学年の取り組み状況を紹介し、共通理解を図る。

○提案授業を行い、実践事項について全体で検証し、共通理解を図る。

○学習状況の検証

- ・全国学習状況調査（6年）、県学習状況調査（5年）、CRT（1～4年）で学力分析と過去のデータとの比較を行う。

(9) 今年度の主な研修

回	期 日	内 容
1	4月4日（火）	研究推進委員会(校長、教頭、教務、研究主任、納所、古賀)
2	4月6日（木）	研究内容・研修計画、チャレンジタイム、ICTの活用について
3	5月24日（水）	唐津の学びスタイルについて、ICT研修
4	6月21日（水）	授業研（3年生） 提案授業
5	7月12日（水）	唐津の学びスタイル振り返り①
6	8月17日（木）	全国・県学調を受けての研修、チャレンジタイム・ICTの活用について
7	10月18日（水）	唐津の学びスタイル振り返り②
8	11月 日（月）	授業研（4年生：国語） ※古舘先生初任研
9	1月10日（水）	唐津の学びスタイル振り返り③
10	1月31日（水）	CRTの結果を受けての研修
11	2月21日（水）	校内研のまとめ